



システム認識イメージ

# AI姿勢検知システム

## 製品化、NETIS登録

ネクステラス

ネクステラス（札幌市、木下大也代表取締役CEO）は、

こぶし建設（岩見沢市）との共同開発により、合図者による合図（ジェスチャー）をAI（人工知能）が認識するAI姿勢検知システム「AI's（アイズ）」を製品化し、2023年12月にNETIS（新技術活用情報システム）

に登録された。システムは建設機械などに取り付けることを想定し、AIカメラが人の骨格を推定することで姿勢を検知し、合図者がオペレーターの死角にいても、両手・片手を上げた場合に音とディスプレイ上で発報する。建設機械の周囲に人がいる

場合に発報するこれまでの安全管理システムとは異なり、合図者側から意思を能動的に発信できることが特長だ。離れた所にいるオペレーターに対してジェスチャーコミュニケーションをとることで、接触事故防止などに役立つ。合図者に装備などは不要だ。人の姿勢やジェスチャーといったアナログ情報をデジタル化することで、距離が離れていたり、騒音などで意思疎通が難しい場合でも、現場のコミュニケーションを補助で

き、新しいAIの活用方法となっている。木下CEOは、こぶし建設との開発に当たって、カメラと合図者との検知距離を延ばしながら、カメラの画角を広げるといふトレードオフの関係性で、バランスを取ることには苦慮したとし「こぶし建設と現場検証を繰り返し、AIの精度と実用性の向上に努めた」と話した。建設DX（デジタルトランスフォーメーション）による生産性向上を

